

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600730		
法人名	有限会社高良		
事業所名	グループホームゆたかのぞみユニット		
所在地	豊川市新豊町2丁目130番地		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigvosvoCd=2392600041-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナ感染症の影響で、外出等のとり組ができなくなり、ホーム内で楽しめる行事を考え、取り組んできました。入居者様の残存能力に応じた作品づくりや、中庭でのアクティビティ活動、職員手作りのクッキーやケーキ等を提供するカフェを開いたり、入居者様に楽しんでいただいています。認知症に特化した施設であることから、認知症専門医の診断と継続受診により周辺症状の緩和を図り、穏やかに生活していただけるように支援しています。またかかりつけの歯科医を持ち、口腔機能訓練、口腔ケアを行い、口腔全体の器質的予防を視野に入れ管理できる体制を作っています。かかりつけの薬局を持ち、常時薬の相談ができる関係にあり、体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ下ではあるが、利用者中心の充実した支援を継続し、家族からの信頼も厚い。その支援に対し、突然の“ご褒美”があった。2年前に所属団体の全国大会でホームの取組み事例を発表し、今年度の大会(昨年度は中止)の会場で、数ある発表事例の中から「歯科との連携、口腔内管理の大切さ」が「奨励賞」を受賞した。事前連絡がなく、突然の受賞に驚きと感激を隠せなかった。発表事例は連携する歯科医院の歯科衛生士との共同研究であるが、日頃から積み上げた支援が成果として認められる形となった。この事例に拘わらず、利用者の健康には十分な知識と配慮を持って臨んでいる。管理者(法人代表)が栄養士の資格を持つこともその要因であろう。利用者と家族の意向を実現しようとする介護計画の作成も、高く評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、職員の目の届くところに張り、意識しながら理念を活かす努力をしている。	「ゆっくり 一緒に 楽しく」をモットーに、地域に開かれた家庭的なホームを目指している。笑顔で接する職員が、利用者の笑顔を引き出している。家族アンケートにも、それを裏付ける言葉が並んだ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に参加可能な入居者は職員と一緒に出掛けたり、反対に地域の方々には事業所の行事に参加いただいていたが、コロナ感染症の影響もあり去年に続き今年度も中止している。	コロナ禍によって、地域交流の大きな柱であった「ゆたか祭り」が2年連続して中止となった。毎年200名を超える来場者で賑わい、地域に定着してきた行事だけに、早期のコロナ収束が待たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に乗れる体制をとっている。施設見学等も受け、認知症専門医を紹介したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過の中三蜜を避ける対策を取り、2ヶ月ごとに開催している。活動状況を報告し、運営委員の方々、高齢者相談センターの職員に相談、参加者で情報交換している。避難訓練に参加いただいている。	コロナ下ではあるが、年間6回の運営推進会議はすべて対面での通常開催を継続している。感染防止の観点から利用者の参加こそないが、家族や行政、地域代表等、多数の出席がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ過の中、一方的に情報を受け取るだけになってしまい、関係が希薄になってしまったと感じる。	運営推進会議には、毎回東部高齢者相談センター(地域包括支援センター)の職員が出席している。行政の立場での発言があり、ホームにとっての有益な情報やアドバイスを得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議をひらき、問題点等をはなしあいミーティングで職員全員で検討している。定期的にアンケート等の実施で職員の意識を把握し、改善への取り組みをしている。オンラインによる研修の実施。	身体拘束適正化委員会が3ヶ月ごとに開催され、職員は「自己点検シート」を使って、毎年自己チェックを実施している。「気づかない不適切ケアがないか」を調べるために、専門性のある大学教授を招聘して現場診断を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員毎月ケアの振り返りを行うことで、職員のケア向上につながるよう努めている。オンラインによる研修の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があるときは参加している。今年度はまだ実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書とともに実施し理解を得ている。その後も質問に対してその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、その場で運営に対して意見頂いていたが、コロナ過で家族会を開催していない為意見や要望が聞けていない。面会時を利用して意見等を伺う機会を設けようと考えている。	ホーム運営に家族の協力的な支えがあり、家族アンケートにも苦情やクレームの類は見られない。コロナの感染状況が悪化した時には家族の面会を中止したが、現在は制限をつけて認めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に時間等は設けていないが、職員からの提案は常に聞いて、対応している。	管理者は法人代表でもあるが、職員との垣根はなく、常に職員の意見や要望に耳を傾けている。働きやすい職場環境が実現しており、職員雇用も安定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境については検討を要する。ねぎらいの言葉をかけたもらっているが、向上心につながっているとは言い難い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できない為今年度はオンライン研修を取り入れ、個々人で研修に取り組んでいる。経験年数の少ない職員が増えてきているため認知症についての理解を深め、認知症ケアに対する研修が必要と思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の対応不足で、同業者との交流がもてず今年度はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、および家族の意向や困り事をしっかり聞くことを実行している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時や入所時に家族の意向を聞き取り確認することに努めている。サービス担当者会議で話し合い意向を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時や入所時に家族の意向を聞き取り確認することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残された能力を活かしながら職員とともにいる生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の定期お便り等で、ご本人の状況を伝え、ご家族の理解につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で限られるが、馴染みの関係の継続を支援している。	家族面会同様、知人友人の来訪にも制限を設けている。そのような中、感染状況が落ち着いた頃合いを見て、利用者の友人4名が東京から訪れ、旧交を温めた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者との会話や雰囲気を感じ取り、一人一人が会話に参加できるよう仲介や声掛けし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も情報を伝えたり、相談に応じる等関係を切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人の希望を把握し、QOLの維持向上、生活の品質向上できるよう心掛けている。	利用者の何気ない一言にも耳を傾け、思いや意向を掴もうとの意識が高い。テレビを見ながら「焼肉が食べたい」との利用者の言葉に、即、中庭での焼肉パーティーとなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な情報から収集している。特に本人・家族から情報を聞き取り、過去の生活歴からヒントを貰いアセスメントにつなげ支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での観察や、介護記録等で少しの変化でも気づけるように、職員同士把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを実施し計画を見直し、家族を含めたサービス担当者会議を開き、より本人にあった計画作成を作成するように努めている。できる事が維持できるよう計画に入れている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定した介護計画を作成している。介護計画の見直しにあたってのサービス担当者会議には家族の参加を求めており、家族の協力も得られている。	利用者の意向を反映させた介護計画が多い。コロナ禍で、「家族・友人とカラオケに行く」等の外出プランは実行できていないが、早期のコロナ収束を願わずにはいられない。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを常に意識しケアを行い、記録は正確に書くように努め、情報共有をしっかりと行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過で外出は無理であるが、受診、リハビリ、マッサージ等個人のニーズに合ったサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人一人の状況に応じた地域資源の把握が必要。現在幅広く活用できていない現実がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	所持医については個人の意向を確認し、本人に適切な医療管理を受けることができるようにしている。月2回の往診を試行しており、早めの急変対応ができるようにしている。	看護師資格を持つ職員を配し、ホーム協力医との連携体制も強固に構築されている。協力医は24時間体制であり、夜間の緊急時にも対応が可能である。歯科医とも連携し、口腔ケアに力を入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の些細な変化でも看護師に伝えている。速やかにホームドクターに連絡し、適切な医療・看護が受けられるようにし、入居者の健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には看護・介護サマリーを作成し情報共有し、病院関係者と情報を密にして、退院時の受け入れも安心してもらえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で主治医、家族職員と話し合いチームで対応できる体制をとっている。安心・安全・安楽に最期を迎えて頂けるように取り組んでいる。	利用者の状態や家族の意向を最優先に、希望があればホームでの看取りを行っている。同法人が運営する有料老人ホームに移って、家族とともに最期の時を迎える選択肢もある。ホームでの看取りには、家族の泊まり込みに対応する用意もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを共有しすぐに応じられるようにしている。日々入居者の様子観察を行い、早期発見、適切な判断ができるように心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。今はコロナ過で地域の合同避難訓練はない為、参加していない。	ハザードマップ上では、警戒無指定地域である。現在は行っていないが、コロナ禍前は地域の合同防災訓練に参加し、避難所まで歩いたこともある。近くにある自衛隊基地が、安心感に繋がっている。	罹災時の停電対策が小型発電機だけであり、心もとない。今後の検討課題として考慮されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という意識を忘れず、入居者の人格に配慮した声掛けができるように十分気を付けるように努めている。	利用者を人生の先輩として敬い、本人の意向を確認してから支援にあたっている。入浴や排泄介助時には羞恥心にも気を配り、異性介助を好まない利用者には、同性職員が支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が理解できるような言葉かけを心掛けている。また入居者に伝わるような声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的に職員の押し付けにならないように、本人の気持ちを尊重し大切にできるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日おきに入浴し清潔な衣類で生活できている。行事や外出時にはその用途に応じた服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に季節の食材を盛り込んでいる。配膳、下膳、盛り付け、食器拭き等できる入居者には手伝ってもらい、一緒に行くこと心掛けている。	定期的な大規模なフローリング清掃が入り、その時は外食となる。利用者の希望を聞き、「焼き肉」や「回転寿司」等の楽しい食事会となる。利用者の希望や力量に合わせ、食事の準備や片づけの手伝いがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えたメニュー、1日の必要摂取カロリー、水分摂取量など管理栄養士の指示の下提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。定期的な歯科受診による口腔内の掃除。入居者全員ではないが、低下が予測される入居者に対しては、機能低下予防のための機能訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かし、声掛け、誘導し支援している。昼間はトイレでの排泄を基本としている。	元気な利用者もいれば、3名の寝たきり状態の利用者もいるなど、排泄支援の状態も様々である。トイレでの排泄を基本としているが、夜間はベッド上でのおむつ交換やポータブルトイレの使用がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事、ヨーグルト、排せつ表の活用、必要に応じてホームドクターの指示の下内服によるコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人での入浴が可能な入居者は、個浴を行い自分のペースでの入浴を行っている。拒否のある入居者に対してはタイミングを見計らって勧めている。週3回の入浴を実施している。	1日置きの入浴機会があり、ほとんどの利用者が週に3回の入浴を楽しんでいる。機械浴の設備があり、座位が取れば寝たきりの利用者も入浴が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全確保しながら個人のペースを見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬を全て理解することは困難であるが、専門医の指導の下服薬調整し、周辺症状のコントロールができるように看護師、職員で相談しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味、特技等を把握し、アクティビティにて気分転換に努めている。時々好みに合った飲み物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はできていないが、施設内でもできる楽しみを増やしている。(喫茶コーナー、中庭でのレクリエーション 外気浴など) 家族様との外出はほとんどできていない。	コロナ禍によって、外出支援を自粛している。感染状態を確認し、落ち着いたときに紅葉見物に出かけることができた。久しぶりの外出で、気分転換した利用者に笑顔が増えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常で必要なものは職員が購入している。入居者がお金をもって買い物に行く機会は少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿っている。携帯電話を使用して家族、知人との連絡をとったり、自由に希望することは可能。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間づくりは居心地よく過ごして頂けるよう廊下にソファが設置してある。トイレは少ないので入居者がお互いに気まずい思いをしないように気を配っている。	玄関から2階の会議室までの通路(階段)を歩き、利用者の楽しげな様子を見ることができた。基本的には共用空間への立入りを自粛しており、詳細なコメントはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所づくりには気を使っている。ソファが1か所ではなく適所にばらしておいてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ本人や家族が持参したものを置いてある。	新型コロナウイルスへの感染拡大防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下には手すりがあり、安全面に配慮している。2階での生活者は生活の中で階段昇降の機能訓練ができています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600730		
法人名	有限会社高良		
事業所名	グループホームゆたか ゆめユニット		
所在地	豊川市新豊町2丁目130番地		
自己評価作成日	令和3年11月7日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_007_kani=true&JigvosvoCd=2392600041-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナ感染症の影響で、外出等の取り組みができなくなり、ホーム内で楽しめる行事を考え、取り組んできました。入居者様の残存能力に応じた作品作りや、中庭でのアクティビティ活動、職員手作りのクッキー、ケーキ等を提供するカフェを開いたり、入居者様に楽しんでいただきました。認知症に特化した施設であることから、認知症専門医の診断と継続受診により周辺症状の緩和を図り、穏やかに生活していただけるように支援しています。またかかりつけ歯科医を持ち、口腔機能訓練、口腔ケアを行い、口腔全体の器質的機能的予防を視野に入れ管理できる体制を作っています。かかりつけの薬局を持ち常時薬の相談ができる関係にあり、体制が整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を、職員の目の届くところに張り、意識しながら理念を活かす努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に参加可能な入居者は職員と一緒に出席したり、反対に地域の方々には事業所の行事に参加していただいていたが、コロナ感染症の影響もあり去年に続き今年度も中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談に乗れる体制をとっている。施設見学等も受け認知症専門医を紹介したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過の中、三密を避ける対策を取り2ヶ月ごとに開催している。活動状況を報告し運営推進委員の方々、高齢者相談センターの職員に相談、参加者で情報交換している。避難訓練に参加いただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ過の中、一方的に情報を受けるだけになってしまい、関係が希薄になってしまったと感じる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が毎日のホーム内で拘束に対してなぜ？と反省を踏まえケアに取り組んでいる。必要に応じて話し合い、毎月の全員参加のミーティングでも確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員毎月のケアの振り返りを行うことで、職員のケア向上につながるよう努めている。オンラインによる研修も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はコロナの影響で参加できていない。学ぶ機会があるときは参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書とともに実施し。理解を得ている。その後も質問に対してその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、その場で運営に対して意見を頂いていたが、コロナ過で家族会を開催していない為、意見や要望が聞けていない。面会時を利用して意見等を伺う機会を設けようと考えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に時間等設けていないが、職員からの提案は常に聞いて、対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境については検討を要する。ねぎらいの言葉をかけてもらっているが、向上心につながっているとはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できない為、今年度はオンライン研修を取り入れ、個々人で研修に取り組んでいる。経験年数の少ない職員が増えてきているため、認知症についての理解を深め、認知症ケアに対する研修が必要と思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ過の対応不足で今年度は同業者との交流が持てずに終わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、および家族の意向や困りごとをしっかりと聞くことを実行している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時や入所時に家族の意向を聞き取り確認することに努めている。サービス担当者会議で話し合い意向確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時や入所時に家族の意向を聞き取り確認することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で入居者のレベルに応じ、お手伝い等職員と共同して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ化の為完全な面会は出来ていないが、ビニールシートを挟んで面会したり、スマートフォンでのビデオ電話で対応し可能な限りの面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特別な場合を除き、入居者とかかわりのあった方々との交流が維持できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌が好きな入居者を中心に、自然にかかわりあえる関係が出来ている。入居者同士の会話が弾むように職員が間にはいりレクレーション等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談に応じたり、移動施設を訪問したり、葬儀にも参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で上手に思いを伝えられない入居者が多い。日常の生活の会話の中から本人の希望や意向を把握するように努めている。職員は入居者の代弁者としての役割を担えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な情報から収集している。本人、家族に過去の成育歴等を確認しながら支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や入居者と過ごす中で把握している。起床時のバイタル、表情を確認しながら状態把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員の家族への情報提供やモニタリングにより情報を共有し、意見をいただきながらケアプランを作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングや月1回のミーティングで入居者状況の把握に努めている。介護記録用紙にケアプランを張り付け、常にプランを意識しながらケアや記録が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はコロナの影響で外出は無理である。リハビリ、マッサージ、受診、口腔機能訓練個々に合ったニーズに対応しサービス支援できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は対象者がいないため行っていないが、地域の交流の場へ出かけ、一緒に趣味活動を行っていたこともある。コロナが治まり、対象者があれば地域資源を活用したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については一方的に入所前の関係を切ることはおこなっていない。家族、本人の意向を確認し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の些細な変化でも看護師に伝えている。速やかにホームドクターに連絡し適切な医療、看護を受けられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護・介護サマリーを作成し提供している。入院中も職員が足を運び、担当看護師から情報を得、状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず入所時に看取りについて説明をしている。重度化した場合はホームドクター、家族、職員で話し合いを持ち、家族の意向を確認しながら、本人・家族に後悔無く納得していただける終末期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、急変時の対応マニュアルを作成している。介護記録に挟み、すぐ目に届くところにおいてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て、定期的実施している。運営推進委員会開催時に実施し、委員の方々にも参加いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、入居者のプライバシー、プライドを損ねないように言動には気を付けている。職員間で注意しあえる関係づくりを目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解できるような言葉かけや、表情から読み取り、自己決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを大切に、思いを聞き入れる支援を基本としているが、職員の都合を優先している現実がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な衣類で生活できている。毎日の身だしなみ、自分の好みの服を優先し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を主に使い料理している。盛り付けにも気を配っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの取れた食事が提供できている。入居者の状態に応じた食事(摂取カロリー制限、食形態等)の提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に付き添い歯ブラシの使い方などを見ながら口腔ケアを行っている。機能訓練の実施や自歯のある入居者は定期的受診により口腔内の掃除を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本としている。立位保持可能な限りトイレでの排泄を行うように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘パターンを把握し、必要に応じてホームドクター処方の内服薬でコントロールしている。繊維質の多い野菜中心の食事やおやつでのヨーグルトで腸内環境の正常化に期待している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を実施している。楽しみながら入浴できるよう、また安全に気を配りながら入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の意志により休息できるようにしている。季節により室内環境を整えながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症専門医の指示の元、内服薬の細やかな調整を行いながら、看護師、職員間で情報を共有しながら服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で入居者の出来ることを役割を持ち生活していただいている。コロナ禍で外出できない分、施設内での楽しみを増やしている。(中庭でのゆめカフェ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族との外出は実施できていない。各季節に応じ入居者と職員で人込みを避けたドライブを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要なものの購入は職員で行っている。入居者がお金をもって買い物をすることはほとんどないが、買い物の希望があれば職員と一緒に掛けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、携帯電話、手紙等可能である。携帯電話使用していた入居者も現在は電話でのやり取りになったが、関係を維持されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には常に季節の花を飾っている。フロアなどの共有スペースには入居者の作品を飾り、和やかな気分を誘っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・長椅子を置き共同空間、廊下にはソファを置き一人になれる空間の確保が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面を考慮したうえで、慣れ親しんだ物を持ってきていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は高齢者が昇降しやすい高さになっている。廊下、部屋には最初から手すりを付けずに必要に応じて設置するようにしている。		